

次期学長に日高義博教授 ——“人間性豊かな人材輩出を”



専修大学の次期学長に日高義博法学部教授・法科大学院教授が選任され、7月3日付で告示・発表された。就任は9月1日付で任期は3年。

出牛正芳学長の任期満了に伴う次期学長候補者の選出は、専修大学学長選任に関する規程に基づき、神田・生田両キャンパスで、6月22日に第1回投票が行われた(投票・開票結果は後記のとおり)。この結果、日高義博教授が有効投票の過半数を得たので、投票管理委員会(矢吹満男投票管理委員会委員長)は、学長選任に関する規程第3条第1項第1号及び同項第3号に基づき、6月22日付で同教授を最終学長候補者として学校法人専修大学理事会に報告した。

専修大学理事会に報告した。

これを受けて、学校法人専修大学では7月2日、評議員会の議を経て、理事会を開き、日高教授を次期学長に選任した。

日高教授は「時代の要請に応える人間性豊かな人材を送り出したい」と語っている。専修大学法学部卒業、明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。75年(昭50)専修大学法学部専任講師、77年(昭52)助教授、84年(昭59)教授。01年(平成13)法学部長。司法試験考査委員。専攻は刑法学。法学博士。56歳。

※抱負・プロフィールは9月号に掲載します。

◇投票・開票結果(敬称略)

投票総数 471票

有効投票 425票

無効投票 46票

得票数

日高義博 425票

【ニュース専修2004年7月号1面】

法科大学院

カリキュラム・入試方法中心に説明会



専修大学法科大学院説明会が7月3日、神田キャンパスで開かれ、70人が参加した。
平井宜雄法科大学院長＝写真のあいさつの後、岩井宜子同副院長がカリキュラム・教育方法について、石村修教授が入学試験について詳細に詳細に説明した。
個別相談では、教員のほか、法科大学院1期生の3人も自らの体験を交えながら対応していた。

※入学試験日程等はこちらでご確認ください。

【ニュース専修2004年7月号1面】

勇壮、華麗に名曲を披露

専修大学フィルハーモニー管弦楽団サマーコンサート



(撮影・多摩スタジオ)

専修大学フィルハーモニー管弦楽団(前澤公一学生代表・文3)の第17回サマーコンサートが6月25日、川崎市多摩市民館大ホールで行われ、ベートーベンの交響曲5番「運命」を勇壮に演奏したほかワグナーなどの名曲を披露し、聴衆550人を魅了した。

【ニュース専修2004年7月号1面】

初夏のキャンパスライフ

法学部ゼミ連主催バレーボール大会



▲優勝した鈴木ゼミチームの強烈なスパイク！

法学部ゼミ連主催のバレーボール大会が6月15日から3週間にわたり、神田キャンパス体育室で49ゼミが参加して行われ懇親を深めた。7月5日の決勝戦は鈴木宏ゼミと坂本武憲ゼミが対戦し、激しいスパイクの応酬の末、セットカウント3-1で鈴木ゼミが優勝した。

育友会長杯争奪留学生スポーツ大会 —韓国チーム優勝—



育友会長杯争奪留学生スポーツ大会が6月13日、専修大学生田北グラウンドで開催され、中国、韓国、日本の学生約100人がサッカーを通じて親睦を深めた＝写真。真夏を思わせる暑さの中、熱戦が繰り広げられ「韓国」チームが優勝トロフィーを手にした。

【ニュース専修2004年7月号1面】

第38回黒門祭

研究発表 やスポーツ企画も



▲ 写真研究会の作品展示には多くの学生が

学術文化系サークルが活動の成果を発表する「第38回黒門祭」が6月25、26、27の3日間、生田キャンパスで開かれた。

今年は、「燃やせ 我らが知と力 発信しよう！専大学生文化を」をテーマに、シンポジウムや研究発表、ミュージックフェスティバル、ソフトボール大会などのスポーツ企画も行われ、大いに盛りあがった。

【ニュース専修2004年7月号1面】

キャンパス探訪<17>

アートの旅『宙』



日本画の伝統を引き継ぐ障壁画様式で、「春・夏・宙・秋・冬」を、花をモチーフに5面・500号の大作。藪野圭一画伯(昭38商経)は製作意図を「宇宙全体の倫理にのっと

り、いのちと、心と、個を表現した」と語る。描かれる花は、写実的ではない。あやめ、ジャスミン、鶏頭を思わせる花たち...

花卉の切り貼り、緑の草花の線描と、技巧を凝らした美しさ。主題の中央の『宙』は「ちゆう」(宇宙)だが、宝塚のように「そら」と読んだ方が楽しい。

作品は生田校舎9号館の理事長・学長質などのある6階ロビー。立ち入り自由ではないが、お断りして鑑賞したらいかが。『春の雪』=樋口幸作(昭32法)、『静』=勝呂孝資(昭23経)などの作品も飾られている。

【ニュース専修2004年7月号1面】